

知財管理のパラダイムシフト：属人的な「経験」から、AIによる「判断の資産化」へ

日本の知財業務は長年、ベテラン担当者の「経験」や「勘」に依存する暗黙知の領域（属人化）に留まってきました。リーガルテック社の「Tokkyo.Ai」は、AIを用いてこのブラックボックス化した判断プロセスを構造化・可視化することで、組織的な知識継承と「稼ぐ知財」への変革を実現します。

課題：属人化による「組織的記憶」の喪失

業らない人の組織を遺

専門性の高い知財判断が明文化されず、若手育成がベテランの背中を見OJTに過度に依存している。



ベテラン

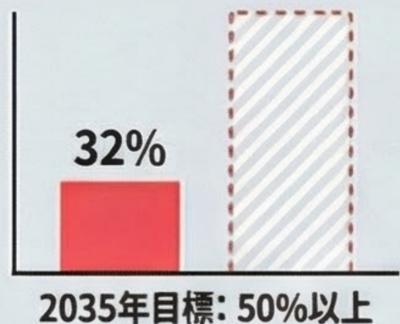
経験と勘に頼る「徒弟制度」の限界

専門性の高い知財判断が明文化されず、若手育成がベテランの背中を見OJTに過度に依存している。



退職・異動に伴うナレッジの消失

高度なノウハウが関人の顧の中にしか存在しないため、人材の流動によって退職の記憶が失われるリスクがある。



日本の無形資産割合はわずか32%

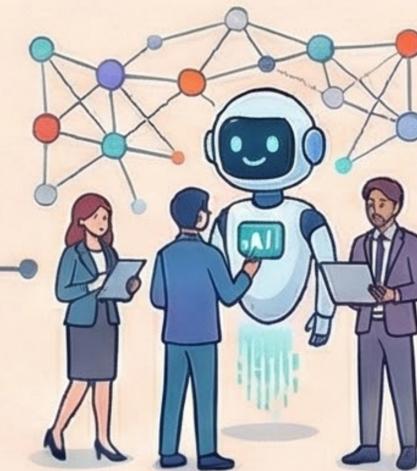
2035年までに時価総額の50%以上を無形資産にするという国案目標に対し、現状は改善の余地が大きい。

解決：AIエージェントによる「判断の資産化」



思考プロセスのデータ化と構造化

思考プロセスのデータ化と出願の是非といったベテランの判断ロジックを可視化する。



検索の切り口、文献の重み付け、出願の是非といったベテランの判断ロジックをAIが可視化する。



説明可能AI (XAI) による学習支援

AIが「なぜその結論に至ったか」という視点を提示することで、若手の退体験学習と業務の標準化を促す。

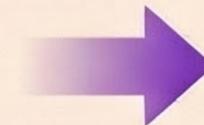
Tokkyo.Ai による変革の比較

| | 従来の知財管理システム | Tokkyo.Ai 育成支援AI機能 |
|-------|----------------|--------------------|
| 管理対象 | 文献データ、出願ステータス | 思考プロセス、判断基準のロジック |
| 依存度 | 担当者の経験に依存（属人的） | 組織として共有・継承可能（組織的） |
| AIの役割 | 検索の補助、自動分類 | ベテランの判断可視化、若手の学習支援 |

「守り」から「攻め」の知財戦略へ



定型作業をAIで効率化



人間はM&Aやライセンス等の高付加価値な「IPストラテジスト」業務に注力する。